

京 都 大 学  
高 等 教 育 研 究  
第 17 号

---

京都大学高等教育研究開発推進センター

2011

# 目 次

## 第一部 論 考

### 研究論文

- 「先輩後輩関係を指導単位とするゼミ制度の有効性に関する一考察—B&S 制度における協同的な学びに着目して—」  
山 田 嘉 徳 関西大学大学院心理学研究科博士課程…………… 1
- 「私立大学における大学生の学習成果の規定要因—ユニバーサル・アクセス時代における多様性と質保証の視点から—」  
岡 田 有 司 立命館大学教育開発推進機構  
鳥 居 朋 子 立命館大学教育開発推進機構…………… 15
- 「[授業プロセス・パフォーマンス] の提唱及びその測定尺度の作成」  
畑 野 快 京都大学大学院教育学研究科博士課程…………… 27

### 実践報告

- 「サービス・ラーニングを手がかりとした職業実践的プロジェクトの展開—学生によるリフレクションの深化に注目した活動のデザインと評価—」  
長 田 尚 子 清泉女学院短期大学国際コミュニケーション科  
村 田 信 行 清泉女学院短期大学国際コミュニケーション科…………… 39
- 「教養教育の授業における学生の主体性形成—学習共同体での役割の再構築に着目して—」  
杉 原 真 晃 山形大学基盤教育院…………… 53

### 研究ノート

- 「大学生生活への意欲と達成が自尊感情に与える影響 —大学1年生に対する縦断調査—」  
田 澤 実 法政大学キャリアデザイン学部  
梅 崎 修 法政大学キャリアデザイン学部…………… 65
- 「台湾開南大学における地域TA制度の実施と検討」  
杜 念 慈 開南大学養生及健康マーケティング学科…………… 73
- 「FD の臨床論—FD 担当者の臨床的感覚に注目して—」  
神 藤 貴 昭 立命館大学文学部…………… 85

### センター教員・共同研究者論考

- 「アカデミックライティング授業におけるフィードバックの研究—Criterion<sup>®</sup> を導入した授業実践からの示唆—」  
田 地 野 彰 京都大学高等教育研究開発推進センター  
細 越 響 子 京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程  
川 西 慧 京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程  
日 高 佑 郁 京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程  
高 橋 幸 京都大学高等教育研究開発推進機構  
金 丸 敏 幸 京都大学大学院人間・環境学研究科…………… 97

「組織間ピアレビューを導入した組織的FD活動の情報共有の試み—参加者アンケートとピアレビューコメントの分析を通して—」

酒井博之 京都大学高等教育研究開発推進センター…………… 109

「学習者の多様性に基づく授業のリフレクション—京都大学文学研究科プレFDプロジェクトを対象に—」

半澤礼之 京都大学高等教育研究開発推進センター  
田口真奈 京都大学高等教育研究開発推進センター  
田川千尋 京都大学高等教育研究開発推進センター  
松下佳代 京都大学高等教育研究開発推進センター…………… 123

## 第二部 記 録

「第17回大学教育研究フォーラム シンポジウム」

開会の辞 大塚雄作 京都大学高等教育研究開発センター教授…………… 137  
開会の挨拶 淡路敏之 京都大学理事・副学長／教育担当…………… 138

シンポジウム 「単位制度から見る教授学習・カリキュラム」

司会 大塚雄作 京都大学高等教育研究開発センター教授  
松下佳代 京都大学高等教育研究開発センター教授…………… 138

報告者1 「単位制度の基盤と今日的課題—時間と成果—」

森利枝 大学評価・学位授与機構学位審査研究部准教授…………… 140

報告者2 「大学生の授業外学習の実態と成長指標としての授業外学習」

溝上慎一 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授…………… 150

報告者3 「医学教育におけるモジュール制カリキュラムと履修制度」

森本剛 京都大学大学院医学研究科・医学教育推進センター講師…………… 162

報告者4 「工学系数学における新たな授業制度の試み—

一週複数回授業、成績更新型履修制度、単元クレジット制」

伊藤浩行 広島大学大学院工学研究院准教授…………… 173

報告者5 「オナーズ・プログラムの可能性—学習時間の確保と学習コミュニティの形成—」

澤登秀雄 創価大学教務部課長…………… 183

全体討論 司会：大塚雄作 京都大学高等教育研究開発センター教授…………… 193

(所属等はフォーラム開催時)

### 日誌・業績

高等教育研究開発推進センター日誌（2010年4月～2011年3月）…………… 207

高等教育研究開発推進センター組織（2010年4月～2011年3月）…………… 228

高等教育研究開発推進センター教員業績（2010年4月～2011年3月）…………… 231

### 『京都大学高等教育研究』規定

『京都大学高等教育研究』編集規定…………… 260

『京都大学高等教育研究』投稿規定…………… 260

## 『京都大学高等教育研究』編集規定

（平成18年5月1日改正）

1. 本誌は高等教育研究を目的として、京都大学高等教育研究開発推進センターが発行する研究誌である。
2. 本誌には、本センター関係教員の論考、共同研究の報告その他本センターの研究活動、本学の高等教育改革に関する記事等を編集掲載する他、投稿論考を掲載する。ただし、投稿論考については、当分の間、次項に規定する編集委員会が、編集上の責任を負える範囲でのものに限定する。
3. 本誌の編集のために編集委員をおく。編集委員長は、センター長が委嘱する。編集委員長は編集委員若干名を委嘱する。編集事務を担当するために編集幹事をおく。編集幹事は編集委員長が委嘱する。編集委員長及び編集委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
4. 編集委員会は、各年度の編集方針その他編集に必要な事項を定める。
5. 本誌に論考の掲載を希望する者は、所定の投稿規定及び編集委員会の定める各年度の編集方針に従い、編集委員会事務局に送付しなければならない。
6. 投稿された論考の掲載および論考の区分は、編集委員会の合議によって決定する。
7. 掲載された論考について、編集委員会は若干の変更を加えることができる。ただし、内容に関して重要な変更を加える場合は、執筆者との協議を経るものとする。

（附則）本規定は、平成18年度発行の『京都大学高等教育研究』第12号から施行する。

---

## 『京都大学高等教育研究』投稿規定

（平成22年12月1日改正）

（全般）

1. 論考の内容は、日本及び世界の高等教育研究に寄与しうるものとし、かつ、当分の間、編集委員会が、編集上の責任を負える範囲でのものとする。この責任の範囲については、投稿の前に、編集委員会に問い合わせること。
2. 論考は、研究論文、研究ノート、実践報告、招待論文、センター教員・共同研究論考に区分される。「研究論文」は、学問的な手続きに基づいておこなわれた、高等教育に関する独創的・新規な研究で、その研究結果が高等教育研究の発展に寄与する論考である。「研究ノート」は、高等教育研究への有益な資料となる論考である。「実践報告」は、高等教育研究への示唆となる、高等教育に関する実践の報告である。「招待論文」は、編集委員会が寄稿を依頼した論考である。センター教員・共同研究論考は、センターの専任教員の論考もしくはセンターの共同研究に関わる論考である。
3. 論考は未発表のものに限る。ただし、口頭発表及びその配布資料はこの限りでない。
4. 論考を投稿する場合、研究論文、研究ノート、実践報告のいずれかの希望する区分を明記する。なお掲載にあたって編集委員会が区分の変更を求めることがある。
5. 投稿された論考は、レフェリー制度を通じて選定の上編集される。投稿原稿は原則として返却しない。
6. 論考は原則として日本語あるいは英語を用いて作成すること。
7. 原稿は原則として以下の作成要領により、ワープロソフトによって作成するものとする。ただし、センター教員・共同研究論考の分量については、この限りではない。

## 〈日本語の場合〉

- ・ A4 版用紙を縦位置で使用し、横書きとする。
- ・ 40 文字× 25 行の 1,000 字を 1 頁とし、20 頁以内の分量とする（図表、注、参考文献を含む）。
- ・ 題名の後に題名の英訳及び英文 200 語程度の要約を付すこと。
- ・ キーワードを日本語・英語それぞれ 5 つ以内であげること。

## 〈英語の場合〉

- ・ A4 版用紙を縦位置で使用し、横書きとする。
- ・ 300 語程度を 1 頁とし、20 頁以内の分量とする（図表、注、参考文献を含む）。
- ・ 200 語程度の要約を付すこと。
- ・ キーワードを 5 つ以内であげること。
- ・ フォントは Times New Roman とし、サイズは 12 ポイントとする。

8. 原稿 1 部を編集委員会に提出する。また、別紙として、氏名（ふりがな）、所属（職名その他を含む）、連絡先（郵便番号、住所、電話番号）、希望区分（研究論文、研究ノート、実践報告のいずれか）を記入した用紙を添付する。

## 〈用語〉

9. 使用漢字は常用漢字を、仮名づかいは現代仮名づかいを原則とする。数字は原則として算用数字を使用する。ただし、特殊な文字、用語ならびに記号の使用については編集委員会に相談のこと。
10. 外国人名、外国地名に原語を用いるほかは、叙述中の外国語は活字体で表記し、なるべく訳語をつける。

## 〈注・引用文献〉

11. 注及び引用文献は、論考末に一括して掲げる。引用文献は、日本語文献、外国語文献を問わず、注のあとにまとめてアルファベット順に記載する。論文の場合は、著者、発行年、文献題目、雑誌名、巻号、頁の順に記載する。単行本については、1 冊を引用対象とする場合、著者、発行年、書名、発行所の順に記載し、一部分を引用する場合には、著者、発行年、引用部分の題目、編者、書名、発行所、頁の順に記載する。なお、訳書の場合は、原書の著者名、原書発行年、原書名、原書発行所名を書き、その後、著者名の日本語表記、訳書の発行年、訳書名、訳者名、訳書の発行所名の順に記載する。なお、句読点、カッコ、斜体等については下例を参照のこと。

## 〈例〉

## ①論文

- ・ 田口真奈 (2007). 「高等教育における IT 利用実践研究の動向と課題—e ラーニングと遠隔教育を中心に—」『京都大学高等教育研究』13 号, 89-99 頁.
- ・ Dall'Alba, G., & Barnacle, R. (2007). *An ontological turn for higher education. Studies in Higher Education, 32*(6), 679-691.

## ②単行本

- ・ 田中毎実 (2003). 『臨床的人間形成論—ライフサイクルと相互形成—』勁草書房.
  - ・ 京都大学高等教育研究開発推進センター (編) (2003). 『大学教育学』培風館.
  - ・ 松下佳代 (2010). 「〈新しい能力〉概念と教育—その背景と系譜—」松下佳代 (編著) 『〈新しい能力〉は教育を変えるか—学力・リテラシー・コンピテンシー—』ミネルヴァ書房, 1-42 頁.
  - ・ Hermans, H. J. M. (1995). From assessment to change: The personal meaning of clinical problems in the context of the self-narrative. In R. A. Neimeyer, & M. J. Mahoney (Eds.), *Constructivism in psychotherapy* (pp. 247-272). Washington, DC: American Psychological Association.
  - ・ Hermans, H. J. M., & Kempen, H. J. G. (1993). *The dialogical self: Meaning as movement*. San Diego: Academic Press.
  - ・ ハーマンス, H. ・ ケンペン, H. (2006). 『対話的自己—デカルト／ジェームズ／ミードを超えて—』(溝上慎一・水間玲子・森岡正芳訳) 新曜社.
12. 引用文献と注を区別し、注は本文中の該当個所に、上付き文字で (1)、(2) ……と指示し、論考末尾にまとめて記載する。
13. 引用文献は、本文中では、著者名 (出版年)、あるいは (著者名, 出版年) として表示する。同一著者の同一年の文献については、a, b, c, ……をつける。

〈例〉

- ・ 田中（1995a）が強調するように
- ・ ……という調査結果も提示されている（田中ほか，1996）。

（その他）

14. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし掲載誌2部と抜き刷り30部を贈呈する。なお、抜き刷りについては、それ以外にもあらかじめ注文があれば実費で作成する。

15. 投稿は随時受け付けるが、発刊期日との関係で、年1回の締切日をもうける。

①原稿締切日：8月31日

②提出書類：紙媒体または電子メールのいずれかで

- ・ 紙媒体：印刷出力1部、消印有効
- ・ 電子ファイル：23時59分まで

\*ただし、3日以内（土日祝祭日含まず）に受領返信メールが届かなければ、お問い合わせください。

③提出先

- ・ 紙媒体：〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町 京都大学高等教育研究開発推進センター  
『京都大学高等教育研究』編集委員会
- ・ 電子ファイル：kiyou@highedu.kyoto-u.ac.jp

16. 掲載された論考の著作権は京都大学高等教育研究開発推進センターに属する。

17. 本規定の改正は編集委員会が行う。

（附則）本規定は、平成23年度発行の『京都大学高等教育研究』第17号から施行する。

■問い合わせ先

『京都大学高等教育研究』編集委員会

730center@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

\*メール送信の際、件名に「京都大学高等教育研究についての問い合わせ」とお書きください。

『京都大学高等教育研究』第17号 編集委員会

編集委員長	松 下 佳 代	
編集幹事	田 川 千 尋	
編集協力者	田 中 每 実	大 塚 雄 作
	溝 上 慎 一	田 口 真 奈
	酒 井 博 之	及 川 恵
	半 澤 礼 之	藤 本 夕 衣
	高 橋 雄 介	坂 本 尚 志

平成 23 年 11 月 30 日 印刷

非売品

平成 23 年 12 月 1 日 発行

発 行 京都大学高等教育研究開発推進センター  
京都市左京区吉田二本松町 (〒606-8501)  
TEL 075-753-3087  
FAX 075-753-3045

印 刷 株式会社プライム  
京都市南区上鳥羽南鉾立町 54-14  
TEL 075-672-0136

# Kyoto University Research in Higher Education

vol. 17

## CONTENTS

### I Articles

#### Papers

- A Study on the Effect of the Seminar System Organized According to the Instruction Unit of Relationship Between Senpai and Kouhai: Focusing on Collaborative Learning in the Brother and Sister (B&S) System .....Yoshinori YAMADA
- Determinants of Student Learning Outcomes in a Private University  
-From the Perspective of Diversity and Quality Assurance in the Era of Universal Access- ..... Yuji OKADA  
Tomoko TORII
- To Propose and Develop a Scale for “Class Process Performance” .....Kai HATANNO

---

#### Reports

- Development of a Practical Vocational Project Based on Service-Learning:Design and Evaluation with a Focus on Reflection  
.....Naoko OSADA  
Nobuyuki MURATA
- The process of university students’ becoming autonomous and cooperative concerning their learning in general education:  
from the viewpoint of role reconstruction in the learning community..... Masaaki SUGIHARA

---

#### Notes

- Effects of Freshmen’s Motivation and Achievement in Campus Life on their Self-Esteem ..... Minoru TAZAWA  
Osamu UMEZAKI
- Implementation and Review of the Intercollegiate Teaching Assistant System at Kainan University, Taiwan  
..... Tu Nien-Tzu
- Clinical Studies of Faculty Development: Focused on Clinical Sense of Faculty Development Activities  
.....Takaaki SHINTO

---

#### Articles by center staff and research fellows

- Feedback in the academic writing classroom: Implications from classroom practice with the use of Criterion®  
..... Akira TAJINO  
Kyoko HOSOGOSHI  
Kei KAWANISHI  
Yuka HIDAHA  
Sachi TAKAHASHI  
Toshiyuki KANAMARU
- Sharing Faculty Development Practices Applying Inter-institutional Peer Review Process: Through Analysis of  
Participants Satisfaction and Peer Institutions’ Comments ..... Hiroyuki SAKAI
- Lecturers’ Reflections on their Classes based on Student’s Study Attitude Diversity:  
A Case Study on the Preparing Future Faculty Programs in the Graduate School of Letters, Kyoto University  
..... Reino HANZAWA  
Mana TAGUCHI  
Chihiro TAGAWA  
Kayo MATSUSHITA

---

### II Documents

- 17th Kyoto University Conference on Higher Education:  
Teaching & Learning and Curriculum from the Perspective of Credit System
- Opening Remarks .....Toshiyuki AWAJI
- Symposium
- Chairperson ..... Yusaku OTSUKA  
Kayo MATSUSHITA
- Panelist 1 .....Rie MORI
- Panelist 2 ..... Shinichi MIZOKAMI
- Panelist 3 ..... Takeshi MORIMOTO
- Panelist 4 .....Hiroyuki ITO
- Panelist 5 .....Hideo SAWANOBORI
- Discussion

---

CENTER FOR THE PROMOTION OF EXCELLENCE IN HIGHER EDUCATION

Kyoto University

2011